

[資 料]

トイレトレーニングにおける 支援体制に関する文献検討

山 田 真 衣¹⁾ 竹 村 眞 理¹⁾

A review of literature on toilet training support systems

YAMADA Mai, TAKEMURA Mari

要 旨

本研究では、トイレトレーニングにおける保育園と家庭の連携支援について明らかにすることを目的に文献検討を行った。方法は、「トイレトレーニング／排泄訓練」と「しつけ」、「トイレトレーニング」をキーワードとしてデータベースには医学中央雑誌 Web 版 Ver.5 を用いた。得られた文献は 8 件であり、「幼児の排泄行動における実態」「トイレトレーニングのタイミングや相談」「保護者のニーズ」別に内容を分類して考察を行った。その結果、「1. トイレトレーニングにおける連携」では、保育士や幼稚園教諭と母親または家族との意思疎通が図れることが条件としてあることが示唆された。「2. トイレトレーニング中の子どもの母親への看護師の関わり」では、看護師が母親の求める情報を把握し、看護の視点をもったトイレトレーニングに役立つ情報を発信することが示唆された。

キーワード：トイレトレーニング

支援体制

文献検討

しつけ

1) 健康科学大学 看護学部 看護学科

I. はじめに

近年、入院患者の平均在院日数は短くなる傾向となっている。年齢階級別に見ると、年齢が下がるに従い平均在院日数は短く、0～14歳の子どもの平均在院日数は、8.8日となっている¹⁾。成人と比べ在院日数が短いとは言え、入院中の子どもであっても成長発達はし続けている。子どもの生活習慣の確立の中で排泄の自立は、初めて自分をコントロールできる発達上重要な項目である。しかし、自立していた排泄行動が治療により後退することが見受けられる。この場合、健康を回復した後に、再度トイレトレーニングが開始されるが、子どもがあらゆる状況にあっても連続した成長発達の支援を行うことが難しい。健常児の場合、連続した発達支援として保育士と保護者が共同して関わることで、排泄習慣の自立の促進につながっていると考えられる。

母子の健康水準向上のための国民運動計画である「健やか親子21 (第2次)」は、平成25年11月時点の報告書を元に、現状の課題を踏まえ、平成27年度から新たな計画が開始された。前「健やか親子21」における報告書によると4課題のうちの「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」では、医療情報システムの構築によって小児科医の数の問題は解決されているが特に「子育てに自信が持てない母親の割合」「育児について相談相手のいる母親の割合」は依然として改善されていないことが報告されている。また、精神的健康度が低い母親と疲労感・イライラ・肩こりなどの不定愁訴を自覚する母親は、育児の否定的感情が高く、肯定的感情が低い傾向があることが報告²⁾されている。このような中、支援できる家族に着目して平成27年度の国民生活基礎調査の概要³⁾をみると、拡大家族の割合が平成27年度では16.0%と平成7年度と比較し、10ポイント以上低下していた。このことから、より一層発達段階に応じた関わり方などの支援体制作りは必要である。

そこで本研究では、発達支援の中でも排泄行動におけるしつけの支援体制について明らかにしたい。特に、トイレトレーニングにおける保育園と家庭の連携支援について明らかにすることを目的に文献研究を行う。これらが明らかになることで、トイレトレーニング中の入院児に対する家庭と医療施設における連携に応用でき、子どもがあらゆる状況にあっても連続した保育を受けられるための保育システム構築の資料になると考える。

II. 方法

1. 文献の選定

文献は医学中央雑誌 Web 版 Ver.5 をデータベースとし、2017年7月までに公開された国内文献を検索した。検索時のキーワードは「トイレトレーニング／排泄訓練」と「しつけ」、「トイレトレーニング」とした。特に、疾患による排泄障害と高齢者の排泄訓練は対象外とした。また、特集や会議録、学会抄録は、除外した。検索した論文を全文入手し、それらを熟読し、本研究の目的に沿った内容記述があることに焦点をあて

て論文を抽出した。その結果、最終的に抽出された論文を研究対象とした。

2. 分析方法

対象となる文献を精読し、トイレトレーニングにおける支援について注目する。各文献について内容を要約表にまとめ、次いでそれぞれの文献が注目している内容をまとめ、分析した。

3. 倫理的配慮

研究において、著作権法に遵守し、先行研究を引用・参照した場合には、引用・参照した文献の存在を明示した。また、対象となった先行研究が示す知見と自らが明らかにした知見を区別して述べるとともに、先行研究からの知見を自らの研究に引用した場合は、その先行研究について、文献名、原著者名、発行年、出版社、引用箇所を明示した。加えて、文献を検討する上で倫理的配慮がなされていないものや、論文内容に倫理的配慮が不十分であると判断した文献は、本研究に於いて使用しないものとした。

Ⅲ. 結 果

1. 文献の概要

収集文件数は、15件であった。そのうち、医師が執筆した疾患による器質的な排泄障がい事例報告を除外した8件を対象とした。

調査対象は、母親が7件、幼稚園教諭が1件であった。研究方法はすべて量的研究であり、データ収集法は7件が質問紙調査、残りの1件は特定のWebサイトの書き込みをデータとして採用していた。

これらの文献は、「幼児の排泄行動における実態⁴⁾⁵⁾⁶⁾」「トイレトレーニングのタイミングや相談⁷⁾⁸⁾⁹⁾」「保護者のニーズ¹⁰⁾¹¹⁾」にそれぞれ注目していた。

2. 幼児の排泄行動における実態に注目した文献

幼児の排泄行動における実態に注目している文献は3件であった。

清水ら⁴⁾が行った中都市の幼児の排泄の習慣の研究では、半数以上の子どもが2歳頃より排泄を知らせようになり、3歳頃には全員が昼間のおむつが取れたと報告されている。排便については、4歳頃にはほぼ全員が付き添っていればトイレで排泄できるようになっていた。幼児の排泄の自立は、もうすぐ幼稚園児になるからという母親の子どもに対する動機づけの効果があることが示唆されていた。また、3歳児の排泄の自立状況とトイレトレーニングの取り組みの実際の報告⁵⁾では、2歳未満に入園した園児の自立の割合が高く、母親の子育て経験の有無と排泄の自立状況に差がないことが報告されている。さらに、おむつの使用状況では、保育園と幼稚園の間に差がないことが報告されていた。

トイレトレーニング中の母親の気持ちについての研究⁶⁾では、うまくいった時の

気持ちは「うれしかった」と9割以上が答えていた。うまくいかなかった場合でも8割以上の母親が肯定的に捉えていたがその一方で、自分に責任を感じている母親もいた。また、うまくいかないことが繰り返されることで、母親自身の自信喪失に結びつく可能性が示唆されていた。

3. トイレットトレーニングのタイミングや相談に注目した文献

トイレットトレーニングのタイミングや相談に注目している文献は3件であった。

山崎ら⁷⁾や堀井ら⁸⁾は、母親が子どもの年齢による標準的な発達状況や、しつけをしやすい季節を見きわめてトイレットトレーニングの時期を決めていたことを報告していた。しかし、実際のトイレットトレーニングは、保育園のトレーニング方法を連携させながら、保育士にトレーニングしてもらっていることが明らかになった⁹⁾。また母親は、トイレットトレーニングを開始するに当たり、保育士や幼稚園教諭から情報を得ていた。一方で、排泄のしつけの情報源である保育士は相談相手としては低く、看護師においては情報源・相談相手ともに選択者が少なかった。多かった相談相手は、友人に次いで自分の母親であった⁸⁾。

4. 保護者のニーズに注目した文献

排泄のしつけを行う保護者のニーズに注目している文献は2件であった。

幼稚園教諭に行った保護者のニーズとその対応についての調査¹⁰⁾では、トイレットトレーニングが家庭でできない場合に、幼稚園に頼る例が認められていた。また、おむつが取れない児に対しては幼稚園でトイレットトレーニングを進めるが、家庭の協力が得られない場合もあり、個別対応を必要とするニーズにおいて、保護者との連携の難しさが挙げられていた。

井田ら¹¹⁾がソーシャルメディア上で発言した内容を分析した結果、トイレットトレーニングに関連した単語が最も多く抽出された単語であったと報告している。母親らは、順調に進まない状況を発言し、自分の子どもの状況に沿ったより詳細かつ具体的な進め方についてのアドバイスを得たいというニーズが明らかになった。

IV. 考 察

今回の文献検討では、トイレットトレーニングにおける連携とトイレットトレーニング中の子どもの母親への看護師の関わりの2点が重要であると考えた。そのため、この2点について考察する。

1. トイレットトレーニングにおける連携

今回の文献検討では、子どもの成長発達の状況や、トイレットトレーニングがしやすい時期を選んでトレーニングを開始していることが明らかになった。また、トイレットトレーニングは、家庭だけではなく保育園と連携して実施していた。その一方で、個人

差の大きいトイレットトレーニングは個別対応となり、保育士からは保護者との連携の難しさが挙げられていた。

トイレットトレーニング開始時期には、ほとんどの子どもが保育施設に通っており、母親は保育士や保育園や幼稚園で知り合った他の子どもの保護者など、誰かしらに相談できる環境は整っている。しかし、実際に子どもと関わりトイレットトレーニングを行うのは、子どもの家族と保育士である。トイレットトレーニングが順調に進んでいる場合には、家族と保育士や幼稚園教諭と連携が取れていると捉えており、トイレットトレーニングがうまく進まない時は連携ができていないと捉えているのではないかと考える。橋本ら¹²⁾は、保育士が保護者へ気になることを伝える際は、保護者の思いや現状を優先させる傾向があり、それを伝えることの困難さが保護者への対応の困難感の要因になっていることを報告している。トイレットトレーニングの状況説明においても、うまく進まない状況を説明することの難しさが、連携を阻害している原因であると考えられる。以上のことから、トイレットトレーニングが順調に進む連携とは、保育士や幼稚園教諭と母親または家族との意思疎通が図れることが条件としてあることが示唆された。

2. トイレットトレーニング中の子どもの母親への看護師の関わり

今回の文献検討では、トイレットトレーニングにおける開始時期や方法などの情報は、保育士や幼稚園教諭から得ている一方で、トイレットトレーニングにおける困り事は、保育士や幼稚園教諭ではなく、友人や自分の母親に相談していた。看護師においては、情報源・相談相手ともに選択者が少ないことが明らかになった。

藤尾ら¹³⁾は、子育て中の母親が期待する小児診療所の看護師の役割について調査を行ったところ、小児診療所の看護師を子育ての支援者として認識されていないことを明らかにしている。また、小児科診療所の看護師に期待する相談内容において、トイレットトレーニングの項目は上位にあげられていた。近年は、健診や予防接種、在院日数短縮による外来通院の増加などで病院に受診するすることが増え、それにより看護師と関わる機会も増加すると考える。そのため、母親がどのような子育ての情報を求めているのかを把握しておく必要がある。そして、看護師が子育ての支援者と認識してもらうために看護師の方から家族に歩み寄り、看護の視点をもったトイレットトレーニングに役立つ情報を発信し援助してゆく必要があることが示唆された。

V. 結 論

今回、トイレットトレーニングにおける支援体制について、以下の2点が明らかになった。

- 1) トイレットトレーニングが順調に進む連携とは、保育士や幼稚園教諭と母親または家族との意思疎通が図れることが条件としてあることが示唆された。
- 2) 看護師は、母親がどのような子育ての情報を求めているのかを把握し、看護の視点をもったトイレットトレーニングに役立つ情報を発信し援助してゆく必要があるこ

とが示唆された。

引用文献

- 1) 厚生労働省：平成26年患者調査の概要. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/dl/kanja.pdf> (2017.9.20)
- 2) 山西 加織, 渡辺 俊之：幼児の子育てをする母親の不定愁訴と育児感情の特徴 保育機関における子育て支援のあり方. 女性心身医学 21巻3号, 314-324, 2017.
- 3) 厚生労働省：世帯数と世帯人員の状況.
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/dl/02.pdf> (2017.9.20)
- 4) 清水 敦彦, 坂場 昌栄, 兵藤 友妃子, 他：幼児の基本的な生活習慣の研究 特に幼児の排泄の習慣について. 足利短期大学研究紀要 28巻1号, 25-29, 2008.
- 5) 村多 綾香, 平元 泉：幼児のトイレット・トレーニングに対する保護者の意識. 秋田県母性衛生学会雑誌 28巻, 33-39, 2015.
- 6) 前田 美子, 堀井 奈緒, 長谷川 嘉奈子, 他：幼児の排泄のしつけに関する研究 しつけに伴う母親の気持ちとうまくいかなかった時の対応. チャイルドヘルス 7巻11号, 878-882, 2004.
- 7) 山崎 久子, 木村 壽子：養育者の糞便観と排泄習慣に関する意識 日本U市と中国S市の比較を通して. ヘルスサイエンス研究 14巻1号, 81-88, 2010.
- 8) 堀井 奈緒, 前田 美子, 宮下 朱里, 他：幼児の排泄のしつけに関する研究 保育所(園)に通所(園)する児をもつ母親の意識とその関連要因. 日本看護学会誌 13巻2号, P84-90, 2004.
- 9) 笠原 昇一, 南部 春生, 小熊 陽子, 他：乳幼児の生活と健康に関する調査研究(第6報) 保育園児の「排泄のしつけ」に関する調査. 北海道医報, 977号, 16-23, 2001.
- 10) 齋藤 幸子, 須永 進, 青木 知史, 他：幼稚園における保護者のニーズとその対応に関する調査. 日本子ども家庭総合研究所紀要 46巻, 247-255, 2010.
- 11) 井田 歩美, 猪下 光：2, 3歳児をもつ母親の育児情報ニーズ ソーシャルメディアにおける発言の分析. ヒューマンケア研究学会誌 8巻1号, 71-77, 2016.
- 12) 橋本 逸子, 木村 留美子, 津田 朗子：A study of difficulties experienced by childcare workers in informing parents of their children's need for special care : through focus group interviews. 金沢大学つるま保健学会誌 39巻2号, 75-83, 2016.
- 13) 藤尾 順子, 山内 京子, 進藤 美樹：子育て中の母親が期待する小児科診療所の看護師の役割に関する実態調査. 看護学統合研究 17巻2号, 33-40, 2016.

Abstract

The current study is a literature review to identify available support for collaboration between daycare centers and families in toilet training. Relevant studies were searched through the Japan Medical Abstracts Society Database Web Version Ver. 5 using “toilet/excretion training,” “training,” and “toilet training” as keywords. Analysis of Eight papers identified was performed, and their contents were classified into the following three categories: “young children’s actual excretion behaviors,” “timing and consultation for toilet training,” and “guardians’ needs.” In terms of “collaboration in toilet training,” the results suggest that effective communication between daycare centers or preschool teachers and the mother or other family members was a necessary condition. With regard to “interactions between the nurse and mother of a child undergoing toilet training,” it was suggested that nurses must understand what information mothers are seeking for toilet training and then provide information based on the perceptions of professional nurses.

Key words : toilet training
support systems
literature review
training